

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

2019年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和元年6月14日(金)発行 第 10 号 発行責任者:高橋 弘悦

応援ありがとうございました 全会津中体連総合大会



全会津中体連総合大会（後期大会）が11日、各会場で開催されました。本校からは、両沼地区優勝の女子バレーボール、バドミントン男女、ソフトテニス男女（ベスト8）が出場し、両沼地区の代表として堂々の戦いを展開してくれました。

残念ながら上位進出はなりませんでした。ソフトテニス女子個人戦で佐藤玲華・土橋咲希組が準優勝、男子個人戦で武田永遠・武田来斗組が第3位、バドミントン男子シングルスで、金子 玄が第3位に入り、すでに全会津準優勝を決めている男子バレーボールとともに、県大会出場を決めました。

【女子バレーボール】高田中学校体育館

会津柳津学園中 2-1 若松一中

会津柳津学園中 0-2 南会津中

【男子ソフトテニス】会津総合運動公園

会津柳津学園中 0-2 喜多方二中

個人戦 第3位 武田永遠・武田来斗組



【女子ソフトテニス】会津総合運動公園
会津柳津学園中 1－2 若松四中
個人戦 準優勝 佐藤玲華・土橋咲希組

【男子バドミントン】会津総合運動公園
会津柳津学園中 1－2 喜多方二中
個人戦 第3位 金子 玄



本当に強いチームは…

県大会に参加する選手を除いて、本年度の中体連行事が一段落しました。この大会をもってほとんどの3年生は部活動を引退し、次の目標に向けて学校生活を充実させることとなります。

スポーツをする者の宿命ですが、勝ち続ける者は世界で1人しかいません。多くはどこかの時点で敗者の悲哀を経験することになります。「人生に意味のないことなどない」とよくいわれますが、この敗者の悲哀を経験することこそ部活動の大きな意味だと思っています。

以前県内のある高校の野球部が、県外の甲子園常連校と練習試合をしたことがあったそうです。常連校の彼らは全力で試合に臨み、当然のことながら大差の試合になったとか…。「遠くからきていただいたのに…」と恐縮する生徒たちに、試合後にはその監督さんから「いい勉強をさせてもらいました」という言葉をもらってびっくりした、という話を聞いたことがあります。

相手がどんなに弱い相手であろうとも全力を尽くすことが試合に臨む者の礼儀。その試合に至るまでには、どのようなチームであろうとも、自分なりに全力を尽くして練習に臨んでいるし、中には力及ばずメンバーに選ばれない生徒もいる…。このように考えるからこそ、そのチームは相手に敬意を払い、助言さえ求めているのです。だからこそ強いのかも知れません。中途半端に強いチームは端から馬鹿にしてかかる傾向もありますが、こういう監督さんのもとで学んだ生徒は、敗者を思いやる心が育ち、人間的にも大きく成長するのだらうなと思います。

全力を尽くして練習に臨んだ者ほど負けたときの悔しさは大きいものです。引退する3年生は、この敗戦をしっかりと噛みしめてください。そして、このような思いをしている人たちがたくさんいることにも思いをはせ、これからの生活を一層充実させるとともに、弱者に対する心も育てて欲しいと思います。

